

税制のEBPMに関する専門家会合（第1回）終了後の記者会見議事録

日 時：令和6年6月28日（金）17時10分～17時14分

場 所：財務省第3特別会議室

○記者

よろしくをお願いします。

今日、今後の議論に向けた各委員の方の意見を聞くというのが中心だったと思いますけれども、こういった意見が傾向として多かったりとか、あるいはこういうようにしたほうがいいのかという具体的なものが少し見えている部分がありましたら、伺える範囲でお願いします。

○事務局

恐らく中の議論は皆さん聞いていただいたとおりでと思いますけれども、具体的なEBPMの手法につきましていろいろな御示唆があったと思います。海外の先行研究があるのでそれを調べたほうがいいのか、あるいはアウトプットとアウトカムをしっかりと選別して検証したほうがいいのか、あとはできるだけ態勢整備の面で言いますと、やはり税務データをもう少し使えるようにするべきだとか、そういったいろいろな御示唆をいただきました。

すぐにできることとできないこと、やはりあるとは思っています。どなたかの委員の先生がおっしゃっていましたが、やはりPDCAのCAの部分が日本は弱いということで、それはつまり、国民の皆さんですとか最後、最終的に決定する国会議員の皆さんが見てぱっと分かるような、そういったシンプルでちゃんと訴えるものが出ていかないとCAにつながっていかないのだと思っています。そういった意味では、いろいろ御示唆をいただいた中で本当にできること、できないこと、たくさんありますけれども、そういった御指摘を踏まえて本当に分かりやすいものをつくっていくというのがこの専門家委員会なのかなというように私は感じました。

○記者

それでは、各社にほうから質問のある方、お願いします。

○記者

最後、今後の開催についてはまた別途御案内ということでしたけれども、今後の進め方について頻度ですとか、あるいは税制調査会本体のつなげ方、どのようなことを想定されているのか御説明をお願いします。

○事務局

今日の資料のEBPMに関して党税調の中から割とちゃんとした明確な宿題をいただいています。毎年、党税調も確認するというように書かれていますので、党税調の議論が始まる頃には何らかのアウトプットをやはり出さなければいけないのかな。それは最低限やらなければいけないことかなと思っています。そうしますと、11月の初め頃

になってしまうと思いますので、恐らくそれに向けて急ピッチでやらなければいけな
いかな。

去年の賃上げの促進税制の検証についてもそういったスケジュールでやったもので
すからそういったペースで進めていくのかなと思っていますが、頻度等々はこれから
座長と相談ですけれども、これは決して事務方が何か全てをやるというものでもなく
て、座長からも作業部会的なものというようにおっしゃっていましたが、場合によっ
ては先生方から発表とか、先生方にこういった先行研究、紹介してもらおうとかという
ことも含めて考えていますので、先生方の準備期間なんかも考えながら決めていくと
いう感じだと思います。

○記者

あとすみません、議論の対象なのですけれども、一部、GXなんかに関しては税制だけ
ではなくて補助金での企業のインセンティブを促すような政策が近年見られるという
指摘もありましたが、あくまで今回、税制だけに絞って、御提案、御指摘のあった補助
金ですとかその他、制度的な企業支援なんかというのは対象外で税制に絞って行う、
そういう理解でよろしいのでしょうか。

○事務局

そういう理解だと思っています。すごく単純に私の理解だけで言ってしまうと、例
えばあるアウトプットが出たとき、アウトカムが出たときにそこに影響するものはい
ろいろあるのだと思います。景気ですとか、それから、金利ですとか、あとは為替です
とか。その中に補助金のあるなしも当然入ってくると思います。そういったいろいろ
な要素を取り除いた上で税の影響がどれぐらいあったかという分析もあり得るかなと
は思っていますけれども、あくまでそういった要素の一つとしてあるとして、それを
しっかり峻別しながら税の影響を見ていくというのがこの専門家会合のミッションか
なと思っています。

○記者

ほか、ありますでしょうか。

では、ないようですので、こちらで終了します。ありがとうございました。

[閉会]